

2024年6月15日自然を語る会： 「海を守るために地上のごみを拾う」

- 飯田橋ボランティアセンター+Zoom
- 参加者 13名

いつもの自然を語る会は「読書会」だが、今回は特別企画で「ゴミ拾い」をやることになった。海洋プラスチック汚染の進行は深刻で、このまま進むと近い将来、海を漂うプラスチックが魚の量を超えると予測されている。海洋プラスチックの殆どは地上から川を経て海へ流れ込んでいるので、海洋プラスチック汚染を食い止めるには、地上のポイ捨てごみを減らすことが肝要だ。それを目的に、アメリカ留学中のメンバーが取り組んでいるゴミ拾いプロジェクト、Cleanup Ninja TURTLES に賛同して、われわれも日本でやってみることにした。

ゴミ拾いというとても地味で単調な作業を、楽しく続けやすい活動にするために作られたのが、ピリカというスマホ用アプリだ。そのプラットフォーム上で、世界のゴミ拾いの「同士」たちが、拾ったごみの写真を投稿し、感謝し合い、励まし合っている。

スマホのアプリというと、デジタル・ネイティブの若者にとっては生活の一部のようなものだろうが、本日の参加メンバーは全員、デジタル「ノン」ネイティブ世代。はたして、アプリの設定はできるのだろうかなど、一抹の不安を抱えながらのイベント開始だった。Zoom のスクリーンにスマホの画面を投影して、全員で一緒に手順を踏んでスマホを操作していったところ、殆どのメンバーはアプリの設定から、グループ、イベント参加の設定完了まで、たどり着くことができた。設定が不調だった一部メンバーとスマホを持たないメンバーの分は、事務局の方でアカウントを用意した。

心配された雨も降らず、天気にも恵まれ（恵まれ過ぎ）、外の気温は28度。時間を30分と定め、無理をしない範囲で、一つだけでもいいから拾ってこよう、と申し合わせて、飯田橋の街に繰り出した（Zoom 組は各自の自宅の界限）。時間になって、Zoom 会議を再開したところ、全員無事の生還を確認。互いの収穫（？）を画面越しに自慢し合った。たった30分、往復の移動時間を除くと実働20分程度であったが、10リットルの袋が満杯になるほど拾ってくるメンバーもいた。たばこの吸い殻、空き缶やマスクなど、様々なポイ捨てゴミが拾われた。Zoom 組の中には、「30分歩いて一つのごみもなかった」という素晴らしい住環境の報告もあった。

各自のアプリで、自分が拾ったごみの写真を撮って投稿したところ、早速、「ありがとう」メッセージが、それぞれの投稿に届き始めた。「意外にごみが多い」、「植栽の下にごみが沢山隠れている」などの発見。「これでスマホにアプリの設定ができたので、他のイベントのついでの時にごみを拾って投稿してもいいかも」という意見も出た。「環境に良いことをして、何だか爽やかな気分」というコメントに同感して、無事、ごみ拾いイベントを終了した。

(原田記)

